

### 大規模災害医療救護計画とは

飯田下伊那の市町村と三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）が平成15年11月1日付けで締結した協定に基づき策定（平成17年初版、平成26年に1次改定）  
大規模地震等の災害発生時に、増大する医療需要に適切に対応するための計画

### 見直しの方針

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 最近の地震の事例を踏まえて傷病者数を設定し、（救護所でのトリアージは現実的に間に合わないため）傷病者を各医療機関へ分散して診療する計画とする    |
| 2 | 域外搬送はDMATと災害拠点病院(飯田市立病院)に一元化する  |
| 3 | 飯伊包括の対策本部は、災害直後に圏域内の医療機関等の情報収集と関係機関との情報共有を最優先事項として行う                      |
| 4 | 発災72時間後は保健所長をリーダーとする「保健医療福祉調整会議」が中心となって避難所等への支援隊の手配等の調整を行う（包括の本部も移行・合流する） |
| 5 | 停電がある程度長引く場合の想定を検討する<br>在宅で医療が必要な方への支援を検討する                               |
| 6 | 各機関が連動できるように地域全体のタイムラインを作って共有する   |

### 計画見直しスケジュール

令和4年 6月～12月	検討チームによる検討を経て、見直し方針を含む中間報告（R4.12）を行った
令和6年3月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画（案）を市町村で検討してもらい修正</li> <li>発災時に診療をしてくれる医療機関や受入れ可能人数を精査</li> </ul>
令和6年8月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯伊地区包括医療協議会理事会で決定</li> <li>計画書を製本をして市町村や医療機関等へ配布</li> </ul>

東海地震・南海トラフ地震発生時の被害想定（40年以内の長期確率90%）

予想震度(最大)	死者	トリアージ赤 (重症)	トリアージ黄 (中等症)	トリアージ緑 (軽症)
6強	7人	30人	60人	120人

被害想定	停電：1カ月（3日後から時間停電）／断水：3日／ 通信網：電話は1～3日間不通、データ通信は可能
------	---



地域内の医療機関へ傷病者を分散して対応する

今回の大規模災害医療救護計画は傷病者への対応方法が大きく変わります

## 分散治療体制（地域内トリアージ）へ

過去の計画では、災害発生時に市町村が救護所を開設し、近隣の医師が各救護所へ駆けつけて、そこに外傷患者が運ばれてトリアージを行った上で、治療ができる病院等へ運ばれることになっていましたが、現実的には発災直後にそのような体制を作ることは困難であるため、各医療機関が分散して治療を行う計画に変更しました。

発災時に特定の病院に患者が集中しないようにすることと、各医療機関の防災設備を更に整えて、停電や断水になっても診療を行うことができるように準備することが今後の対策として必要です。

### トリアージ赤対応病院

（多発外傷・挫滅症候群、広範囲熱傷、骨折(大)）

飯田市立病院（災害拠点病院）

DMAT活動拠点本部が設置され、重症患者の域外搬送の調整等を行う

瀬口脳神経外科病院

頭の外傷等 トリアージ赤と黄に対応する

### トリアージ黄対応病院

（骨折(中～小)、打撲、外傷(中～小)）

飯田病院、健和会病院、輝山会記念病院

県立阿南病院、下伊那厚生病院、下伊那赤十字病院

トリアージ黄と緑に対応する

### トリアージ緑対応診療所

（骨折(小)、打撲、外傷(小)）

**整形外科又は外科を標榜している医療機関**

安達整形外科医院、飯田市立高松診療所、飯田市立千代診療所、市瀬整形外科、上松医院、おおぎ整形外科、大鹿村立診療所、木下医院、木下クリニック、くまがいクリニック、慶友整形外科、しばたファミリークリニック、下條診療所、下久堅診療所、竹村整形外科医院、天龍村診療所、富草へき地診療所、新野へき地診療所、橋上医院、羽場医院、宮沢医院、泰阜村診療所、康野整形外科リウマチクリニック、山岡整形外科

**皮膚科を標榜している医療機関**

回生堂皮膚科クリニック、金田医院、後藤医院、こばやしクリニック泌尿器科皮膚科、西澤産婦人科クリニック、久田小児科医院、井上医院、宮入皮膚科医院、山路医院、渡辺医院

※各診療所が対応可能かどうかは調整中。現時点では候補の段階

